

男の生き方講演会

視点を変えて
生きようよ

人生再設計のすすめ

—仕事人間から生活人間へ—

あなたは定年後の自分がどういう日常を送っているか想像できますか？



定年後は収入面、人との関係、妻との関係、健康面等々あらゆるものが大きく変化をします。大きな変化の中で、そろそろ肩の力を抜いて、会社中心の生き方をリセットし、豊かで充実した人生を送るために必要なヒントを見つけましょう。この講演はこれまで「仕事人間」としてがんばってきた人に贈る、男性応援講座です。

定年前の方や、すでに定年退職されている方もどうぞ。豊かで、楽しい第2の人生を過ごすためのヒントがきっと得られます。「これからの人生をどう生きるか方向性がみえた」と各地で参加者から絶賛されている講師のお話を直接聞ける貴重な機会です。

■日時：2007年1月20日(土)1時30分～3時30分

■会場：土庄町立中央公民館 2階 中会議室

■対象者：このテーマに興味のある方ならどなたでも

■講師：吉田清彦さん(フリーライター)

■申込み締切り 2007年1月12日(金)

■申し込み・問い合わせ先：土庄町役場 人権対策課

TEL 0879 (62) 7015 FAX (62) 2400

■主催：土庄町男女共同参画推進委員会 パートナーシップ in とのしょう

■共催：土庄町人権教育推進協議会

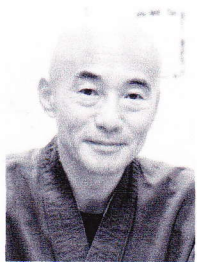
※この講演会は、香川県男女共同参画社会づくり講師派遣事業を利用して開催されています。

「人生再設計のすすめ」講演会申込書

お名前	ご住所	年齢
お電話	FAX	

土庄町役場 人権対策課 TEL 0879(62)7015 FAX (62)2400

講師の 吉田清彦さん



フリーライター。調理師。1984年に「コマーシャルの中の男女役割を問い直す会」を結成。現在、同会世話人。ほかにも「市民メディアねっと」、「関西単身けん」、「メンズリブ研究会」など数多くのネットワーク活動にかかわり、情報、メディア、家族、暮らし、男の料理など多様なテーマで講師を務める。95年頃から「男性講座」や「男性料理教室」の講師を依頼されることが多くなり、行政発想にとらわれない新しい男性講座のスタイルを次々に考案して多くの男性に感銘を与えている。98年には「日本女性会議 あまがさき」の実行委員・企画運営委員を務め、04年秋からは兵庫県男女共同参画審議会委員も務める。尼崎市在住。実家は坂出市。

心のリハビリ……対話妨げる男気質

(中村正 日本経済新聞連載「オトコの交差点」より)

「年齢を数える時、どうやって数えるか」とカウンセリングを専門にする同僚から聞かれた。「そうですね、ただ数えていって37年生きたかなと考えます」と答えた。「そのうちに、あとどのくらい生きることができるのかと数え出すときが来る」と言われて会話は終わった。それ以来、出会う男たちに聞いている。だいたい40代で数え方が変わるようだ。普通の人は、聞かれて初めて時間感覚が変化するのに気付く。例外は病気や事故のあった場合。ビジネスシーンから一転し、静寂と孤独の中で向き合うのは自分自身。

男たちのグループ討論で、リハビリの技師さんが語っていたのを思い出す。中年男性のリハビリにはちょっと工夫が必要だという。ふがない自分を受け入れるのにたいそう時間がかかる。肩書きの高い人ほどその傾向がある。そういう男たちには弱い自分を受け入れる、心のリハビリが大切らしい。弱さを受容することを妨げるのは、内面化された男らしさイメージ。しかしやはり努力の男たち。心のリハビリに成功すればパワーが出てくる。

よく似たことはもっと身近にある。男女のコミュニケーション能力の差について、友人が話してくれた。大部屋に詰め込まれた男性患者は常にカーテンでベッドの周りを囲っているのにたいして、女性の部屋はやかましく、井戸端会議ならぬ床端会議に花が咲く。病気になっても男らしさイメージは衰えないのだろうか。病は気からということが一面の真実ならば、男気質というのがやっかいではないか。

だれしもふがなくなることが老いるということだ。定年後生活へのソフトランディングは、こうした心のリハビリに学ぶことが多い。しなやかさと潔さが心のリハビリには必要だ。時間の流れが変わる時、心は潤いを求めている。